



相互連携による防災力の向上

松浦市社協と北松浦 JC との災害時相互協力協定

社会福祉法人松浦市社会福祉協議会（社協）と一般社団法人北松浦青年会議所（北松浦 JC）との災害時相互協力協定書の締結式が 11 月 27 日、松浦市社協で行われました。

大規模災害時の発生に備え、社協は災害ボランティアの活動の拠点となる災害ボランティアセンターの設置・運営を想定し、支援を円滑に行うための体制づくりを進めています。この協定締結により、北松浦 JC の地域に根差したネットワークや組織力を生かした支援が可能となります。

さまざまな機関が連携を強化し、市民が安全・安心に暮らせる環境づくりに取り組んでいます。



笑うことで心も身体も元気に

笑いヨガ講演会

平成 30 年度御厨地区健全育成会事業として笑いヨガ講演会が 11 月 22 日、御厨小学校体育館で開催されました。

笑いヨガは、普通のヨガと違い、笑う動作とヨガの呼吸法を組み合わせたもので、年齢や体力に関係なく誰でも簡単に行えるのが特徴です。

この日は、御厨小学校全校児童 215 人が笑いヨガを初体験。ながさき笑いヨガ倶楽部の岩本千恵子代表に教えてもらい、地域の人たちと一緒に笑いヨガを行いました。みんな手拍子や掛け声を交えながら、大きな声で笑ったり、踊ったり、歌ったりして、体育館には笑い声があふれていました。



おいしいメロンが揃いました！

松浦アールスメロンまつり

毎年恒例の松浦アールスメロンまつり（JA ながさき西海松浦地区メロン部会主催）が 12 月 2 日、（道の駅）松浦海のふるさと館漁村体験学習施設で開催され、市推奨特産品のアールスメロンが販売されました。

この日準備された松浦アールスメロンは 300 ケース。今年は夏の猛暑で生育が心配されましたが、生産者の努力により、暑さにも台風にも負けず、糖度の高いおいしいメロンに仕上がりました。

販売開始前から列ができ、会場は旬のアールスメロンを求める買い物客でにぎわいました。



楽しい！おいしい！お魚教室

お魚教室

星鹿小学校が、漁協や漁協婦人部と連携して毎年実施しているお魚教室が行われました。

今年も 3 年生と 5 年生が料理に挑戦。11 月 30 日には、5 年生 18 人が、地元でとれた米や魚、野菜で、刺身のほかアジフライ、イカリング、かきたま汁、じゃこ飯を作りました。

児童らは、上手に包丁を扱いながら分担して調理を進め、おいしそうなお魚が部屋一帯に広がり、テーブルにはきれいに盛り付けた料理が並びました。

完成後、お世話になった地域の人たちに感謝の気持ちを伝え、みんなでできたての味を楽しみました。



五穀豊穰を願って

白浜神社大祭

白浜神社の秋の大祭が12月2日に開催され、今年の豊作への感謝と、来年の豊作を祈願する「的打ち」および「稲舞」が奉納されました。

的に当たった矢の数で来年の豊凶を占う「的打ち」。中川明宏宮司が神殿の天井二隅に取り付けられたワラ製の直径約50㍉の的をめがけて3本ずつ矢を放ちました。放った矢は全て命中し、中川宮司は、「来年は豊作となるという結果となった」と話されました。

また、「稲舞」では、今年収穫した稲穂の束を北川旭さん（志佐小1年）が担いで、中川宮司と一緒に舞を奉納しました。その稲の穂を集まった氏子など約50人に配り、来年の豊作を祈願しました。



長年の勤労に感謝し交流を深める

勤労者の祭典

第31回勤労者の祭典（松浦市商工業労政推進協議会主催）が12月2日、文化会館で開催されました。

第1部の優良従業員表彰式で11人が表彰を受け、梶原睦さん（社会福祉法人梶の葉会）が代表して謝辞を述べました。

第2部の職場対抗ソフトバレーボール大会では、市内事業所から14チームが参加し、事業所相互の親睦を深めました。上位の結果は次のとおりです。

【優勝】松浦衛生 A

【準優勝】(株)エミネントスラックス A

【第3位】J-POWER



地域の安全を祈る

不動明王像魂入れ

岩本保さん（志佐・白浜）が制作した仏像の魂入れが12月6日、国道204号線沿いにある岩本建設作業場で行われました。

大工である岩本さんは現在86歳。過去に息子さんを交通事故で亡くし、その供養のため、交通安全祈願の守り神である不動明王像を自ら制作することを決意されました。その後、旅行先で松浦市内にぼけ封じの観音様がないことに思い至り、呆け観音も制作して一緒にお祀りすることにしたそうです。

岩本さんは「息子のように交通事故に遭う人が一人でも減って欲しいという願いを込めた」と話されました。



伝統を守り、受け継ぐ

笛吹神社の大しめ縄張り

笛吹神社例大祭が12月6日に行われ、笛吹地区に江戸時代から伝わる伝統行事の大しめ縄張りが奉納されました。

今年は、鳥渡馬伏地域の住民らが中心となって準備を進め、笛吹・日隠地域の協力も得て、持ち寄った稲わらで長さ約7㍎、直径約60㍉、重さ約300㍎の大しめ縄を完成させました。

大しめ縄作りは人手や手間を要する作業ですが、住民らが協力し、稲わらの選別から編みまで昔からの方法で丁寧に行われています。

大しめ縄は、鳥居の側に立つ2本のマキの木の間に張られ、住民たちは、地域の無病息災と五穀豊穰の願いを込め奉納しました。

